

相模原事件が起きた2016年7月26日、私はそのころうつ状態で仕事を休んでいて、午前中は精神科を受診していました。午後帰宅してから、知人のメールに「今朝の事件」と書いてあり、なにが起きたのかと急いで調べました。ネットニュースを点字ディスプレイで読んで驚き、大変なことが起きたと思いました。

身体の調子は悪いけれども、こうしてはいるなと思い、研究室のスタッフに新聞や

■相模原事件の衝撃



〈特別インタビュー〉 個人が尊重される社会とは

福島 智さん

ふくしま さとし／東京大学先端科学技術研究センター教授、全国盲ろう者協会理事。9歳で失明、18歳で失聴し、全盲ろうとなる。盲ろう者では世界初の正規の大学教員になる。著書に『盲ろう者として生きて』(明石書店、2011年)、『ぼくの命は言葉とともにある』(致知出版社、2015年)など。

テレビ、ネット上での書き込みも含め、可能な限りの情報を集めてほしいと伝えました。

報道される限りでは、特定の人には恨みがあるという訳でもなさそうだし、極めて計画的に犯行がなされていることがわかつてきました。その日は眠れなくて、なぜこんなことが起きたのか、なにができるのか、などをずっと考えていました。そこで、自分の気持ちを整理するために文字にしていきました。

この事件の衝撃は、私にとっては3・11の東日本大震災が起きたときと同じような感覚でした。私は3・11のときアメリカにいたので直接体験はしていませんが、あのときもずっとメールやパソコンばかり見ていました。今回の事件は私のなかで津波が起きたのと同じなのです。一体この社会はどうなるのか、これはなんなのだと感じました。取材依頼が何件もきましたが、そのときは体調が悪く、明け方になつて、ようやく書けたので、数人の方に送ったところ、新聞記者の方が、誌面に掲載したいと連絡してきました。普段より

今、私たちには差別について突きつけられているのではないでしょうか。

今回の特集では、さまざま分野の方に、それぞれの考える「差別」を語っていただきます。自分の身近な問題に引きつけながら、「差別」とはなにか、「共生社会」でほんとうに大切にしたいことを考え合いましょう。

【特集】 差別

相模原事件の加害者は、障害者に対する差別意識を背景に事件を起こしたと言われています。一方、「みんな一緒」などの言葉の裏に、一人ひとりの思いが疎外され、問題が見えづらくなっている状況もあります。この社会とともに生きていく中での差別は、人権に対する感覚を鋭くし、学び語り合うことなくしては見逃してしまいます。

記事にするために新聞社とやりとりをすることになり、その過程でヒトラーの影響があると思うと伝えていたのですが、新聞社からはそれはまだ確認できていないから決めつけない方がいいのではないかと言われました。

でも、これはあまりにもヒトラーの政策に類似しているから、影響を受けている可能性は高いと思いました。そこで、「今回の容疑者は、ナチズムのような何らかの過激思想に感染され、(中略) 蛮行に及んだのではないか、との思いがよぎる。」という表現にしました。記事は事件の起きた翌27日の深夜までに書いて、28日の夕刊に掲載されました。そのほぼ同じ時間にテレビのニュースで容疑者が「ヒトラーの思想が降りてきた」という発言をしていたと流れただけで、ぞっとしました。私は、ヒトラーの考え方を知つて共鳴したといふくらいのことはあるだろうと思つていただけれども、思想が降りてきた、自分にヒトラーがのりうつったかのような表現をするとは、どういうことなのかと背筋が寒くなりました。

この事件の衝撃は、私にとって3・11の東日本大震災が起きたときと同じような感覚でした。私は3・11のときアメリカにいたので直接体験はしていませんが、あのときもずっとメールやパソコンばかり見ていました。今回の事件は私のなかで津波が起きたのと同じなのです。一体この社会はどうなるのか、これはなんなのだと感じました。取材依頼が何件もきましたが、そのときは体調が悪く、明け方になつて、ようやく書けたので、数人の知人に送ったところ、新聞記者の方が、誌面に掲載したいと連絡してきました。普段より